

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900166		
法人名	社会福祉法人豊中ファミリー		
事業所名	グループホームアリス甲子園		
所在地	兵庫県西宮市枝川町8-68		
自己評価作成日	令和3年 8月19日	評価結果市町村受理日	令和3年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年 9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットの小規模なグループホームで、落ち着いた雰囲気の中入居者9名のそれぞれの持っている力を大切に、お互いに支えあいながら美味しく食べる事、ぐっすり寝る事、心地よい排泄を大切に生活していただいています。総合施設の中にあるグループホームでもあり他部署とも交流を持ち、また地域とのつながりを大切にするため地域行事への協力や参加をしながら過ごしてきました。終わりの見えないコロナ禍での生活となり外部との交流などが出来ない中、GH単体での行事や空いた時間などの個別ケアやレクに力を入れています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営やサービス面で複合施設の利点を活かした、1ユニットのグループホームである。明るく清潔感や家庭的な雰囲気が感じられ、畳やソファのスペースで思い思いに過ごしたり、庭や屋上で外気浴もできる環境である。夕食は献立作り・食材購入・手作り調理を行い、利用者の希望・季節感・行事食を取り入れた食事を提供し、利用者も調理や後片付けに参加している。庭の畑で花や野菜を育て、卓上に飾ったり、食材に活用し、季節感・生活感が感じられる。コロナ禍のため、通常の地域交流・施設内行事・外出行事は休止しているが、事業所内の行事、散歩、四季の共同制作、日々のレクリエーション、家事参加など、日常生活の中で楽しみや役割が持てるように支援に努めている。毎月「浜便り」を発行し、利用者個々の様子や表情を家族に伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(兵庫GH用)

株式会社H. R. コーポレーション

自己評価および第三者評価結果

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やアリス甲子園の理念に基づき、グループホームの運営方針を決め実践している。	事業所理念に、地域密着型サービスの考え方を明示している。法人・施設・事業所の理念をスタッフルームに掲示し共有を図っている。入職時オリエンテーションで、理念について具体的な説明を行い理解を深めている。理念の実践に向けた事業計画を作成し、年度末に振り返り評価を行い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの状況では今まで行っていた施設行事や地域行事などの互いの交流などがない状況です。	通常は、地域行事や認知症カフェへの参加、ボランティアによるイベント、トライアルウィークの受け入れ、認知症サポーター養成講座の開催、地域参加の施設行事・映画会・カフェの開催等、施設全体で地域交流・地域貢献に積極的に取り組み、事業所も参加している。令和2年度は、施設として自治会事務局との情報交換、ケアステーションによる介護相談、また、事業所として地域資源の利用等、可能な範囲で地域とのつながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	トライやるウィークや認知症サポーター養成講座は現状では行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面会議としたことで後回しがたたり昨年度は初回のみの実施となりました。	家族代表・市の権利擁護支援員・地域代表（民生委員）・知見者（他事業所から）を構成メンバーとしている。令和2年度は、書面での会議を1回実施し、利用者や職員の現状報告や事業所の紹介などを議事録にまとめ、構成メンバーに郵送し、返信用紙で構成メンバーの意見を収集している。	* 年に6回の開催が望まれます。 * 個人情報に配慮の上、議事録の公表が望まれます。 * コロナ禍終息後には、可能な範囲（短時間参加など）で利用者の参加を検討されることを期待します。

グループホームアリス甲子園

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開催見送り、提出漏れ等多く密ではない状況	運営推進会議を通して、市との連携がある。市からの情報提供や、運営やサービスについての問い合わせについては、施設の事務所経由で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。リビングの窓から庭へは自由に出入りはできる。外周の門には電子錠はかけている。庭から他者居室への侵入する方がおり、トラブルや空調管理、害虫の侵入を防ぐために居室から庭への窓も開口制限をかけている。	指針として「身体拘束の適正化のためのマニュアル」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。施設合同で「身体拘束適正化・虐待ゼロ委員会」を毎月実施し、議事録の閲覧により職員の周知を図っている。リビングから庭への出入りは自由にでき、利用者に希望があれば、屋上での外気浴や近隣の散歩に職員が同行し、閉塞感を感じないように支援している。	* 事例がない場合も、3ヶ月に1回以上は検討の記録を議事録に記録し、確認印などにより職員の周知を明確にすることが望まれます。 * 「身体拘束適正化」「虐待防止」「成年後見制度」「プライバシー保護」等については、定期的・継続的な研修の実施が望まれます。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内研修と法人の全体研修にて虐待防止、不適切ケアについて研修を行っている。	不適切な言葉かけや対応がないよう、職員間で意識向上に努めている。相談しやすい環境づくり、ストレスチェックの実施、希望休や有給休暇の取得促進、シフト調整等、職員のストレスや不安等がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がいない。	成年後見制度利用の事例はない。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、施設内の相談窓口が対応できる体制がある。	

グループホームアリス甲子園

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面接し説明や質疑応答を行っている。契約時にも重要事項説明書と契約書を読み合わせ説明している。改定時などは施設の事務スタッフと連携をとり説明にあたっています。	入居希望があれば、施設見学やパンフレット等の説明で情報提供している。契約時は、契約書・重要事項説明書等を読み合わせ、家族からの質問に丁寧に答え、不安の軽減に努めている。契約内容の改定時には文書で説明し、質問があれば個別に説明し、文書で同意を得ている。契約終了時には、情報提供する等、円滑な退居に向けた支援に努めている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口もありますがコロナ禍の状況では家族様からの意見や指摘を直接頂けない状況と感じています。	利用者の意見・要望は、日頃の会話から把握し、食事や外出等に反映している。通常は、家族の来訪時に近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。コロナ禍のため、電話での報告と把握が主になっている。毎月「浜便り」を郵送し、事業所の行事等と利用者個々の生活の様子を写真を多く掲載し、紙面を大きくして表情もわかりやすく伝え、意見・要望が表しやすいように情報提供している。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や情報共有会議、勤務中などに意見や提案をきく機会があります。	通常は、施設職員会議(2ヶ月に1回)、グループホーム会議(月1回)を開催している。令和2年度は休止し、グループホームの「情報共有会議」を不定期に開催し、利用者個々についての情報共有と検討を行っている。日々の業務の中で検討事項があれば、出勤職員で検討して「申し送りノート」で共有し、利用者のケアや業務に反映できるよう取り組んでいる。管理者が、随時に個別面談を行い、個別に職員の意見を聴く機会を設けている。内容に応じて、管理者が施設長に職員の意見を報告している。	

グループホームアリス甲子園

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己チェックシートにて意識調査は行っています。スタッフの得意なことを活かせてもらえるようにすること、有休や希望休もしっかりとってもらえるように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力は把握しているつもりではあります。職員会議が主な研修の場ではあったが開催されない状況であるため研修を通じて育成はできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内の他部署との交流すら控えている状況です。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察と傾聴をおこなうこととスタッフ、家族との情報共有を行うことによって居心地よく過ごせてもらえる環境を提供できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの更新時、月1の月報、なにかあればその都度連絡し関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居室内の環境づくりや、家族によって違いのある保ちたい距離感を見極め対応しています。		

グループホームアリス甲子園

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設での生活があまり堅苦しいものにならないように気を付けています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現時点ではこまめな協力の要請はできない。受診時などには付き添いをお願いし会える機会を作っている。家族の名前などは良く会話に出し思い出してもらっている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所の提供など支援する用意はあります。	通常は、家族の面会時は、施設の喫茶スペース・居室・リビング等でゆっくり過ごせるように配慮している。施設合同の行事が、施設内の他事業所利用者との馴染みの関係を継続する機会にもなっている。馴染みの場所への外出には家族が同行し、事業所は準備などで外出を支援している。令和2年度は、面会・交流・外出を休止している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯ものや食器洗いをしてもらい助け合う気持ちは持てるようにしています。どうしても合わない者もありますので少し離したり目線に入らないようにし互いに心地よく過ごせていただけるように心がけています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方であれば会う機会も多からずありますので大切には思っておりますが、フォロー、相談、支援など責任の大きなことはいたしていません。他所への移動の場合は情報の提供などは行っています。		

グループホームアリス甲子園

自己 者第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中ではありますが、食事や排泄、入浴、就寝時間などは可能な限り本人の生活スタイルを尊重しています。	利用者個々の思いや暮らし方の希望を、入居前情報・生活歴等シート(家族記入)・面談内容等をもとに把握し、入居後の生活スタイルや支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後に把握した思いや意向も、「申し送りノート」等で共有に努めている。把握が困難な場合は、表情・反応から汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様には生活歴や昔の写真などを提出していただき情報収集に努めている。会話の中でどのような暮らしであったかを聞き出し発見などあれば情報を共有している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠状況やバイタル測定、個々の表情や会話内容などから細かく把握出来ていると思います。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと担当スタッフを中心に作成されている。	入居前情報・生活歴等シート(家族記入)・面談内容等をもとに、初回の「居宅サービス計画書」を作成している。サービスの実施内容は、「介護記録」「ケース記録」に記録している。「情報共有会議」(不定期)や「申し送りノート」で利用者の状況の把握や検討を行い、定期的には3ヶ月に1回「計画書」の見直しを行っている。見直し時には、モニタリングと課題分析を行い、利用者・家族の意向をもとに検討し、「サービス担当者会議録」に記録している。	* ADL・IADL・生活歴・趣味嗜好など、個別支援に活用できる情報を、統一した書式で共有することが望まれます。 * 計画にもとづいたサービス実施を記録し、検証できる記録の工夫が望まれます。 * モニタリングによる評価と、課題分析によるニーズの把握が、計画の見直しに連動する経過を、「サービス担当者会議録」等に明示することが望まれます。

グループホームアリス甲子園

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の考えや意見交換などは常に行われている。意見を出しやすい環境づくりを目指しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診など家族の付き添いが必要とされるものも家族様の都合や状況をみてスタッフのみの付き添いで行ったりしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や接触を避けなければならない状況ですので地域資源を活かしているとは言い難い。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、心療内科、歯科、皮膚科の定期往診があるが、その他のものがあれば付き添いや送迎の支援を行っている。	協力医療機関から、内科・心療内科・歯科の定期的な往診、皮膚科の必要時の往診を受けられる体制がある。他科については家族の同行を基本とし、状況に応じて、事業所が送迎や付添いの支援を行っている。受診については、「ホーム日誌」「ケース記録」に記録し、「申し送りノート」で職員に周知を図っている。施設内の看護師との連携もある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算はとっていないが、必要時には特養の看護にアドバイスをもらえる環境は保たれている。		

グループホームアリス甲子園

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提示は行っている。退院の際は病院の相談員と相談し家族、病院、施設に都合の良い日を決めている。3か月間の居室確保の時間をとっている。	入院時は、看護サマリーやアセスメントシートにより情報提供している。通常は、入院中は病院へ面会に行き、本人の状況の把握や病院関係者と情報交換している。令和2年度は、入院中や退院前には、家族や病院の相談員と主に電話で情報交換し、早期退院に向け支援している。退院時は看護サマリーの提供を受け、退院後の対応や支援に反映している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでは医療行為を行えないことを説明したうえで重度化された場合も家族や本人が望まれるのであれば主治医と看護の指導の下、看取りケアとして受け入れている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を、入居時に口頭で説明している。重度化を迎えた段階で、主治医から状況を説明し、事業所から出来ること出来ない事を説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、「看取りの同意書」で同意を得て、主治医・施設内の看護師と連携を密にし、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行えない状況。ほとんどのスタッフは少なからず救命講習など経験あり。昼夜問わず対応しきれない状況であれば主治医や看護に指示をもらえる体制をとっている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常では月に1度避難訓練を予定はしているが、他部署エリアの移動などしないといけないため現在は実施していない。	通常は、施設合同の避難訓練を年2回、事業所の避難訓練を毎月実施している。事業所では、水害に備えて2階への避難訓練も実施している。令和2年度は、コロナ禍のため、夜間想定避難訓練を施設合同で1回のみ実施している。施設合同の備蓄は厨房の委託業者が行い、事業所でも独自の備蓄も行っている。自治会との災害時の協力体制を築いている。	避難訓練実施後は、実施記録を作成し、訓練内容や訓練の評価・振り返りを、参加できなかった職員にも周知することが望まれます。

グループホームアリス甲子園

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に理解しやすい言葉を選び意思確認やコミュニケーションをとっている。羞恥心なども考慮し同性介助や過剰介護にならないように注意している。	日々のコミュニケーションやケアの中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が行えるよう、職員間で意識向上に取り組んでいる。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管し、写真の掲示や「浜便り」等への掲載については、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ここは医療施設ではないことと日常生活の場であることをスタッフに周知し集団生活の中でも可能な限りの意思の尊重や要望に答えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他スタッフの為に動くのではなくまず入居者の意思やペースを大事にするように心がけている。スタッフ本位なケアにならないように大まかな時間管理は必要だがあまり細かすぎないこと、是が非でもやらなければいけないことなどは少ない事をスタッフには周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	聞き取りが出来る方は本人の意思に任せ、出来ない方であれば家族様と相談し、どのような恰好をしていたかなどの聞き取りは行っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や要望を聞きメニューを考えたり、いっしょに広告を見ながらどんなものを食べたがっているか等リサーチしている。包丁なども使える方には使っていただいて料理の準備を手伝っていただくこともある。	朝食の主食とスープ類は事業所で準備し、朝食のおかずと昼食は厨房から提供されている。夕食は献立作り・食材購入・調理を事業所で行い、手作りの食事を提供している。献立には利用者の希望・季節感・行事食を取り入れ、検食簿の評価等を献立や調理方法の参考にしている。厨房からの昼食にも季節食・行事食が取り入れられ、毎月の給食委員会での検討を反映している。利用者個々の誕生会には、好みの献立とケーキでお祝いしている。調理や後片付け等に、利用者の得意や好みを生かして参加できるよう支援している。	

グループホームアリス甲子園

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼は栄養士管理の施設食をたべているので、自前の夕食の際はあまり深くは考慮していない。食の細かい方に関しては栄養補助食も用意し使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後には口腔ケアを行っている。歯科指導の下自力では足りない方には介助している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方以外は定時排泄介助は行わず、本人のペースや動きをみて対応している。	排泄の自立度に個人差が大きい状況であるが、重度の利用者以外は、日中はトイレでの排泄・排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄状況や排泄パターンを「介護記録」に記録し、定時誘導は行わず、利用者個々のタイミングで対応している。介助方法や排泄用品の使用について検討が必要な場合は、「申し送りノート」で経過を共有しながら、現状に即した支援につなげている。トイレのドアの開閉や、声かけや報告時の声の大きさ等に留意し、プライバシーへの配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防としてイーjeeファイバーや体操、水分量の確認など行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どうしても午前中の中の入浴時間となっているが、2～3日に1度の入浴を心がけている。無理強いせずに拒否のある方は入りたい人と交代したりしている。スタッフと1対1で急がすことなどないようにゆっくりとした時間をとれるように調整している。	週に2～3回、午前中の中の入浴を基本とし、体調や気分に応じて柔軟に対応し、入浴状況は「介護記録」で把握している。ひのき風呂で、自身のペースでゆっくり入浴できるよう、時間を調整している。リフト浴も設置され、座位が可能な場合は浴槽での入浴を支援している。同性介助の希望には同性職員で対応し、入浴拒否にはタイミングや職員を変えて対応する等、個別の配慮を行っている。ゆず湯・しょうぶ湯・バラ風呂等、季節感を楽しめる機会も設けている。	

グループホームアリス甲子園

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動量は意識している。夕食後の7時頃よりナイトケアに入っているが居室内では自由にすごしてもらっている。夜であることを認識してもらうため照明なども工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳の更新やチェックを適時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時間が持てれば散歩に付き添ったりしている。食事やおやつも楽しんでもらえるように固く考えないようにしている。昼食、おやつ、夕食前とレクを行っている。行事も季節感を出したり、少人数のGHならではのものを考え行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前であれば近隣への散歩や買い物に行くことはあったが、現在は感染予防のため行えていない。散歩はスタッフが付き添える際などは積極的にしているがだいぶ要望が減ってきたように感じる。最近はドライブに連れていくことが増えてきた。	通常は、散歩・買い物などの日常的な外出、地域行事や認知症カフェへの参加、初詣・花見・アジサイ公園・バラ園などへの季節の外出行事等、積極的に外出支援に取り組んでいる。令和2年度は外出を制限しているが、近隣の散歩やドライブ、庭や屋上での外気浴等、戸外に出て気分転換が行える機会作りを工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、極力本人管理としては控えて頂いている。どうしてももちたい希望であれば高価なものや大金にならないように家族様に話もっていただいている。事務室の金庫に保管しているということで大抵は理解してもらえている。		

グループホームアリス甲子園

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を希望されることは経験上ないが、年賀状や施設の便りを送る際に走り書き程度であるが書いてもらっている。電話は希望があれば都合をつけ行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの自発的なものに頼るところは大きいですが、季節の花や庭で採れた野菜を飾っている。居室清掃も朝夕、トイレも定時3回、食堂は毎食後に行っているので清潔にはできている。	大きなガラス戸からの採光で明るく、広さと清潔感がある。リビングと食堂にテーブル席・ソファ・畳スペースがあり、廊下の一角にもソファスペースがあり、また、リビングから庭に出ることもでき、思い思いの場所で過ごせる環境である。利用者がアートワークで制作した四季の装飾を飾り、テーブルに庭で育てた生花を生け季節感が感じられる。庭の畑に野菜を植えて、水やりや収穫を行い、夕食やおやつの食材として楽しみ、季節感や生活感が感じられる。庭で洗濯物を干したり、リビングで洗濯物をたたむ等、家事参加も支援している。温湿度管理、定時の換気・掃除・消毒など、快適性や衛生管理にも注力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングと食堂に集まっていることが多い。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には見慣れて使い慣れている家のものの持ち込みを薦めています。家具の位置なども本人や家族の意見をきいている。	居室もゆったりと広く、窓からの採光で明るく清潔感があり、ベッド・洗面台・クローゼット・エアコン等が設置されている。たんす・テレビ・テーブル・椅子等の使い慣れた家具や、家族の写真・人形・ドライフラワー・CDプレイヤー等の馴染みの物や趣味の物の持ち込みを勧め、居心地よく過ごせるように支援している。動線の確保や日差し等を考慮し、ベッドや家具の位置にも個別の配慮を行っている。	

グループホームアリス甲子園

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十人十色ということを念頭に置き高齢者、認知症と一括りにせずそれぞれの状態や能力に合わせている。		